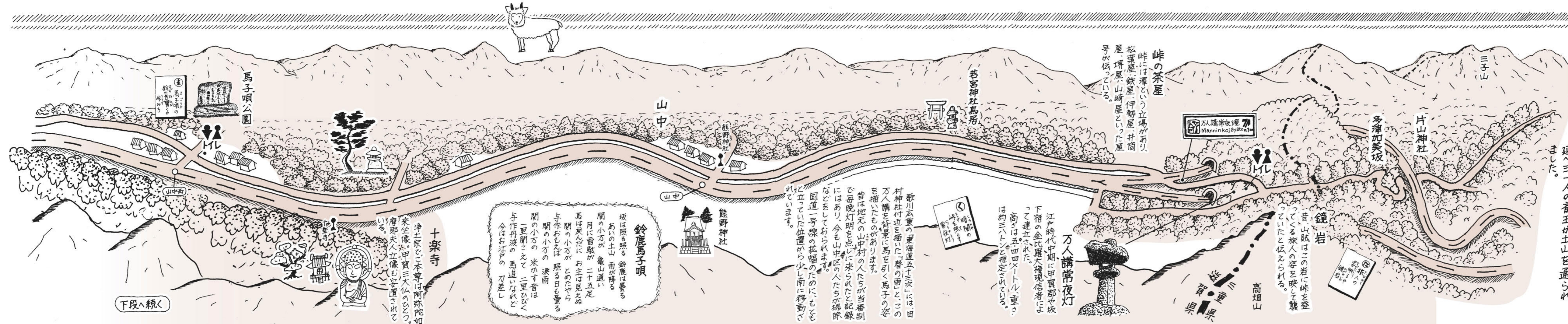


鈴鹿峠 土山宿 絵地図

鈴鹿峠

近江国と伊勢国の境は鈴鹿峠。その麓に位置する土山は古くから交通の要所でした。平安時代に京と伊勢を結ぶ阿須波道が土山を通り、この道の開通により齋王の伊勢求向の道として、以後三〇〇年間にわたり延べ三一人の齋王が土山を通られました。



馬子唄公園
トイ
山中
山中

峠の茶屋
峠には澤という立場があり、松葉屋、鉄屋、伊勢屋、井筒屋、塚屋、山崎屋といった屋号が伝えている。

万人講常夜灯
Mannin Kojō Yōtō

鏡岩
昔山賊はこの岩に峠を登ってくる旅人の姿を映して驚かすといわれています。

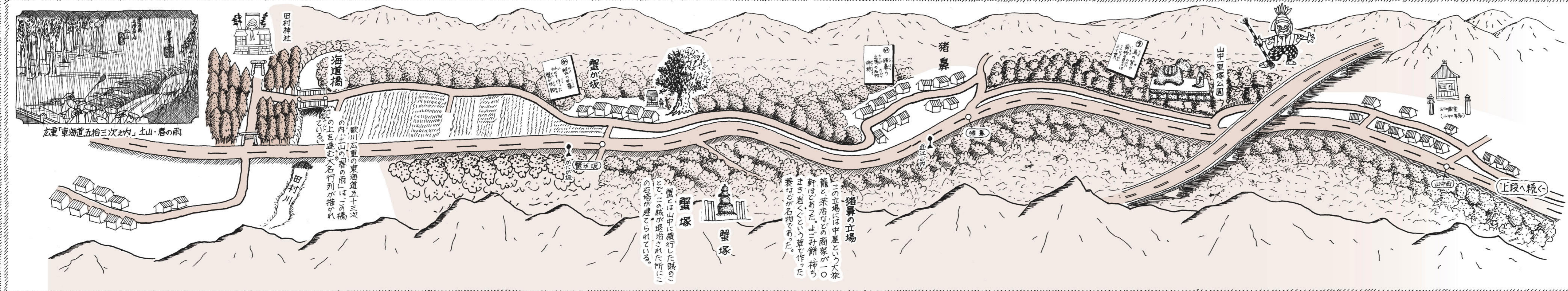
万人講常夜灯
江戸時代中期に甲賀郡や坂下宿の金比羅大権現信者によって建立された。高さは五尺四寸、トール重さは約三八トンと推定されている。

歌川玄重の「東海道五三次」には田村神社付近を描いた「春の雨」とこの万人講を背景に馬を引く馬子の姿を描いたものがあります。昔は地元の山中村の人たちが当番制で毎晩灯明を点して来られたと記録にはあり、今も山中区の人たちが掃除などをしておられます。園道一号线の拡幅のために、もと立っていた位置から少し前に移動されています。

鈴鹿馬子唄
坂は照る照る 鈴鹿は響る あいの土山 雨が降る 関の小方か 龜山通い 月に雪駄が 二十五疋 馬は尻に におまは見えぬ 関の小方か このたやうら 与作おもえは 照る日も曇る 関の小方の 涙雨 一里閉さえて 二里ひびく 与作丹波の 馬道いなりと 今はお江戸の 刀差し

十楽寺
浄土宗の二本尊は阿彌陀如来坐像。甲賀三仏のひとり海耶夫人立像も安置されている。

下段へ続く



玄重「東海道五拾三次之内」土山・春の雨

田村神社
海道橋
海道の橋の上を進む大名行列が描かれている。

歌川玄重の「東海道五三次之内」土山の春の雨は、この橋の上を進む大名行列が描かれている。

蟹が坂
蟹が坂

蟹塚
蟹塚は山中に横行した賊の巣窟で、この賊が退治された所、の石塔が建てられている。

猪鼻
猪鼻の立場
この立場には中産といえる大茶籠と茶店などの商家が、一〇軒ほどあった。よみ餅、柿ちまき、岩くまという菓を作った養はごが名物であった。



山中重家公園
山崎神社

上段へ続く

